

慈眼堂

後樂園の慈眼堂は茶畑の西端近くにあり、1697年に池田綱政（1638～1714）によって創建されました。慈眼堂は池田家の人たちの平穏と安寧、岡山城の城下町の人々との友好を祈願して建てられたものです。

かつては110センチの仁王像が2体、お堂の入口近くに建っていました。仁王像は2000年に復元されて岡山県立博物館に移され、永久収蔵品となっています。現在本堂は空堂になっていますが、かつては高さ1メートルと50センチの2つの観音像が安置されていました。1884年に後樂園が岡山県に譲渡された後、観音像は池田家に返還され、現在は岡山市内の2つの寺院に安置されています。

本堂は空ですが、境内にはまだ当時のまま残っているものがいくつかあります。その一つが高さ4メートルの烏帽子岩です。烏帽子岩は烏帽子の形をした複合岩であり、烏帽子はもともと平安時代の公家が身につけていた、山が高く丸い形のかぶりもののことを指します。烏帽子岩は成り立ちの点では後樂園の大立石に似ており、もともとは一つの岩だった36片の花崗岩からできています。